

トビウオ通信 (12月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 14 年度沿岸イカ釣漁業とスルメイカ資源》

今月は島根県西部の小型イカ釣りによるイカ類の漁獲動向と日本海のスルメイカの資源動向について報告します。

浜田港に水揚げされた地元小型イカ釣り船によるスルメイカとケンサキイカ(シロイカ)の漁獲量の変動を図 1~2 に、また、浜田港に水揚げされたケンサキイカの所属港別の漁獲状況を図 3 に示します。

スルメイカ依然として低調

平成 14 年のスルメイカの漁獲量(11月までの集計)は56トンで、前年の2.2倍、平年の31%と前年は上回ったものの低調に推移しました(図1)。水揚金額は1,900万円で、前年の2.6倍、平年の30%、単価は339円/kgで、前年の119%、平年の92%となりました。

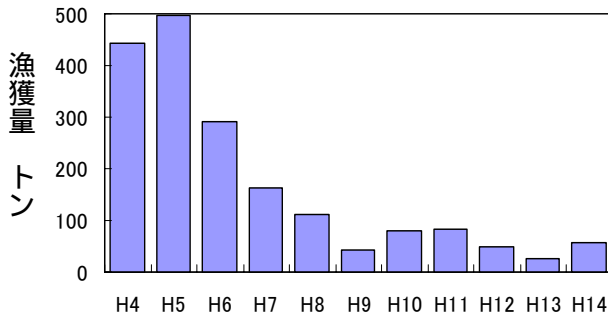


図1 浜田地元小型船によるスルメイカ漁獲量 (平成14年は11月までの集計)

ケンサキイカやや増加!

平成 14 年のケンサキイカの漁獲量(11月までの集計)は115トンで、前年の2.3倍、平年の65%と極端に不漁だった前年は上回りましたが、平年を下回りました(図2)。水揚金額は1億1,500万円で、前年の2倍、平年の64%とほぼ漁獲量と同様な傾向となっています。単価は1,003円/kgで、前年の88%、平年の96%と前年および平年をやや下回りました。

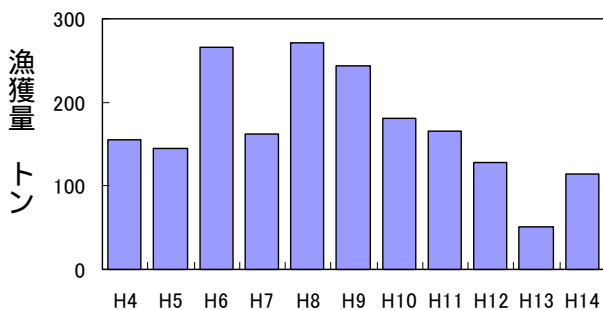


図2 浜田地元小型船によるケンサキイカ漁獲量 (平成14年は11月までの集計)

平成 14 年浜田港にイカ釣漁業で水揚げされたケンサキイカの総漁獲量と所属別漁獲量の平年(過去4カ年平均)比を示しました(図3)。所属は浜田船、浜田外県内船、県外船の3通りに区分しています。水揚げのピークは9月で、県外イカ釣り船の水揚げが好調となっています。また、量的には少ないのですが、2月・3月にも県外船は平年を大きく上回っています。

県外イカ釣好調!

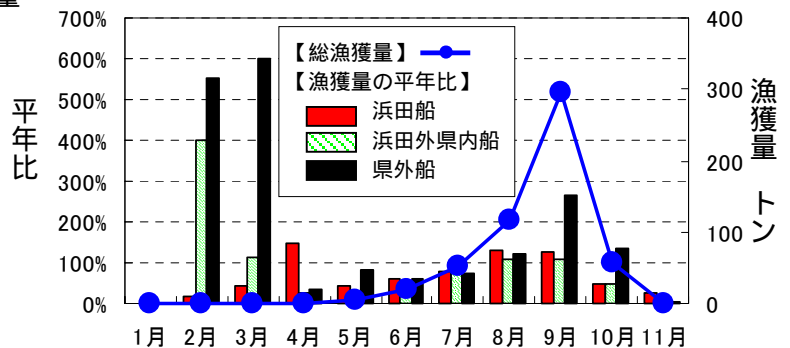


図3 浜田港に水揚げされたケンサキイカの所属別平年比と漁獲量

漁場一斉調査によるスルメイカの分布状況

平成 14 年 6 月下旬から 7 月中旬にかけて日本海区水産研究所および各県の関係機関によりスルメイカの漁場一斉調査が実施されました。調査は日本海の我が国 EEZ 内のほぼ全域で実施され、実施した全ての調査点でスルメイカが採集されました。図 4 に釣獲試験による CPUE(釣機 1 台 1 時間あたりの漁獲量)を示します。

【海域別の分布状況】

- 1) **道央～道北海域**では、主に平均外套背長 17～18cm の個体が分布し、沿岸域では非常に高い分布密(CPUE=200 個体前後)でした。また、積丹半島の南西沖は平均外套背長 21～22cm の個体の分布も見られました。
- 2) **北陸から道南の沿岸～沖合域**では主に平均外套背長 19～20cm の個体が分布し、能登半島の北方で非常に分布密度の高い海域(CPUE=158 個体)が見られました。しかし、東北の沿岸～沖合域にかけては分布密度が低い傾向(CPUE=10 個体前後)にありました。
- 3) **沖合の亜寒帯前線付近**では主に平均外套背長 21～22cm の個体が分布し、大和堆付近で分布密度の高い調査点(CPUE=78 個体)が見られました。また、北緯 41～42 度付近の海域では平均外套背長が 23cm を越え、ほかの海域と比較して大型の個体が分布していました。
- 4) **山陰沿岸域**では、平均外套背長 17cm 以下の小型の個体が分布していました。

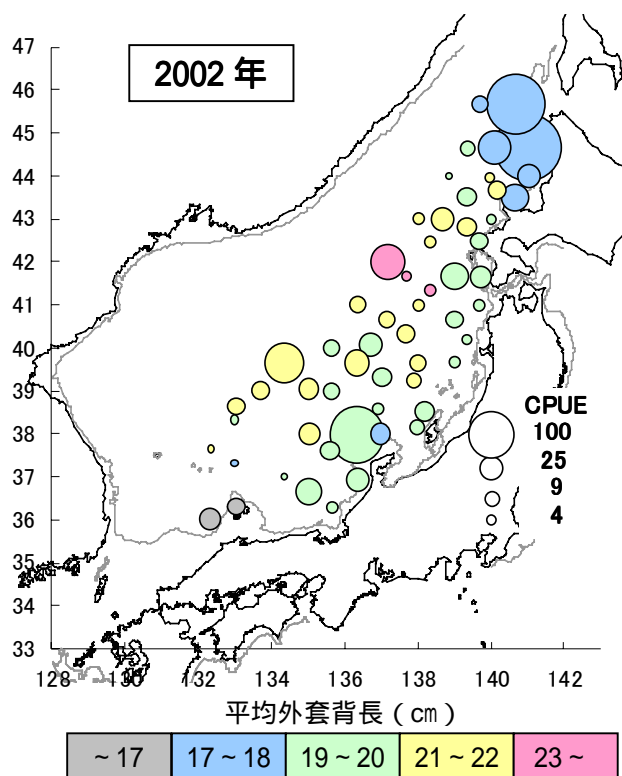


図 4 漁場一斉調査によるスルメイカの分布状況

【分布量】

今年のスルメイカの分布密度を示す CPUE(釣り機 1 台 1 時間あたりの採集個体数)の全調査点の平均は 25.04 個体でした(図 5)。この値は昨年の値(21.93 個体)の 114%、過去 5 年間の平均値(18.75 個体)の 134% であり、このことから、今年の本日本海におけるスルメイカの資源量は、近年で最も高い水準にあると推定されました。

【今後の島根県沖での漁況の行方】

日本海におけるスルメイカの資源量はここ数年高い状況が続いています。しかし、10 月以降日本海各地

での漁獲量は平年を下回っており、2000 年に夏場の漁獲が多かったにもかかわらず秋～冬の漁が振るわなかった状況とよく似ています。その原因として、スルメイカの南下回遊経路が大陸側に形成されることが考えられます。実際、秋～冬にかけて日本の漁況が振るわなかった年は、韓国の漁獲量が増えていることから、今後の南下経路が引き続き大陸側の経路をたどれば、島根県沖でのスルメイカ漁は不漁に終わる可能性もあります。なぜ、スルメイカの南下経路が変わるのかについては、海洋環境の影響が想定されますが、その原因についてはいまだに解明されていません。

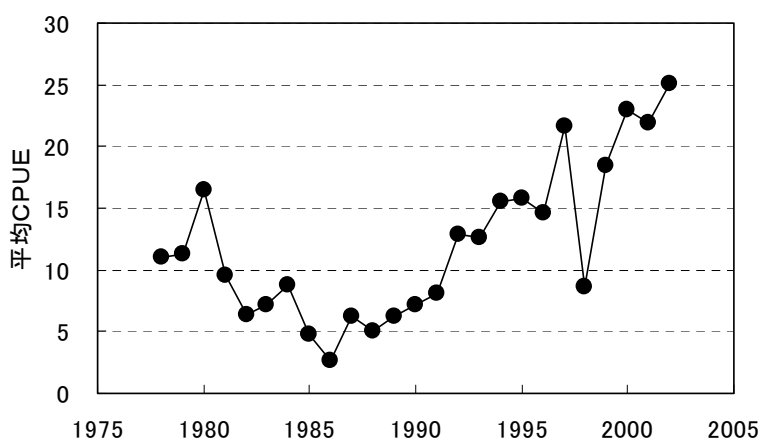
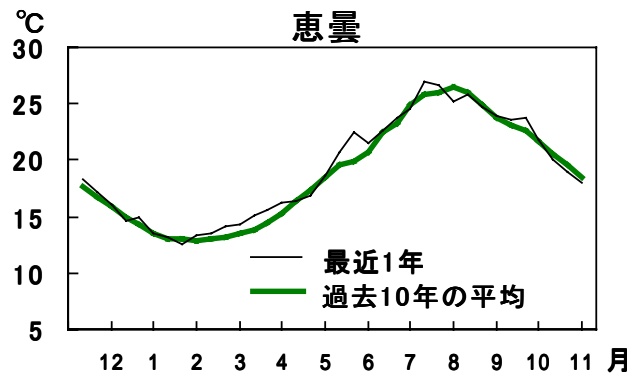
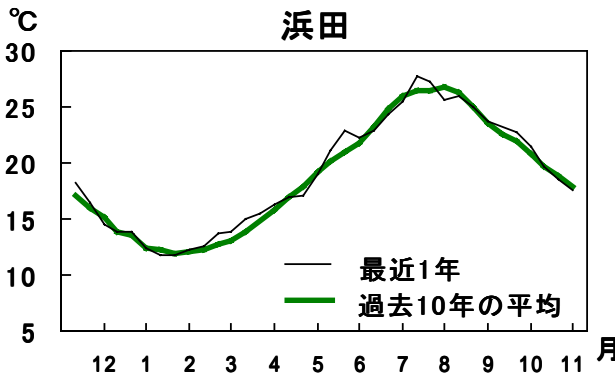


図 5 CPUE(釣機 1 台 1 時間あたりの漁獲量)の経年変化

《 11月の海況 》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	18.6	-0.2	平年並み
恵曇	19.0	-0.6	やや低め

11月の月平均水温は10月に比べ浜田で3.9、恵曇で4.1下降しました。浜田では平年並み、恵曇では平年よりやや低めとなりました。



島根・鳥取県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(12/2~12/3)によると、各層の水温は表層(0m)が13.9~18.2(平年差は-1.7~+1.8)、中層(50m)が14.1~18.4(平年差は-1.6~+2.6)、底層(100m)が4.0~18.4(平年差は-1.4~+5.6)となっていました。11月上旬と比較し沿岸域の水温は表層および中層で約4、底層で約2下降しました。

沿岸から隠岐諸島にかけての広い範囲を、表層~底層まで水温16以上の水塊が覆っていました。冷水域は、隠岐諸島の北西約50マイルにみられ、12月になって南下に転じました。

山陰沿岸海域の水温は、表層および中層では「やや低め~平年並み」、底層では「平年並み~やや高め」となりました。

《 11月の漁況 》

【中型まき網漁業】

今月から恵曇港所属のまき網船団が無くなったことから、西郷のまき網船7ヶ統の数値を示します。浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ・ソウダガツオ類主体に379トン、総水揚金額は7,200万円でした。1統当りの漁獲量は126トンで、平年(過去4ヶ年平均)の45%、前年の45%となりました。水揚金額は2,400万円で前年の74%、平年の96%となりました。西郷では、サバ類・ブリ・ウルメイワシ・マアジ主体に総漁獲量2,182トン、総水揚金額は2億700万円でした。1統当りの漁獲量は312トンで前年並み、平年の49%でした。水揚金額は2,900万円の前年並み、平年の60%となっています。浦郷ではサバ類・ブリ・マアジ主体に総漁獲量484トン、総水揚金額は6,100万円でした。1統当りの漁獲量は161トンで前年・平年並み、水揚金額は2,000万円とこちらも前年・平年並みでした。今月は時化の影響で出漁日数が少なく、低調な漁模様となりました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカ、アオリイカを中心に1トンで、前年の27%となりました。スルメイカがほとんど水揚されていません。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカ、ソデイカを中心に51.1トンで、前年の60%に留まりました。スルメイカの漁場はかなり沖合いに形成されています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は382トン、総水揚金額は2億1,843万円、1統当たり漁獲量は54.5トン(前年比91%、平年比108%)、水揚金額は3,121万円(前年比94%、平年比136%)でした。漁獲の中心はムシガレイ(前年比62%)、キダイ(前年比432%)でした。

恵曇港の総漁獲量は149トン、総水揚金額は1億1,120万円、1統当たり漁獲量は37.3トン（前年比77%、平年比88%）水揚金額は2,780万円（前年比92%、平年比106%）でした。漁獲の中心はヤナギムシガレイ（前年比79%）アンコウ（前年比95%）キダイ（前年比140%）でした。

【小型底びき網漁業】

大田市漁協と和江漁協では量・金額ともに前年を上回り、また1日1隻当たりの漁獲量、金額も前年を14～30%上回り、好調に推移しました。今月に入りソウハチが漁獲の主体となり、前月に比べ漁獲量が約4倍増となっています。また、ニギスも安定した水揚げが見られ、前年に比べ約3.5倍の漁獲がありました。キダイも小型サイズを中心に好調であり、前年を25～50%上回っています。

【定置網漁業】

先月に引き続き県全体で漁獲量、水揚金額ともに前年と平年を大きく下回りました。特に県西部と隠岐では前年と平年の5割以下の漁獲量、水揚金額と大きく落ち込んでいます。県東部ではアオリイカ、カワハギ類、ブリ、ソデイカが主体となっており、アオリイカは前年の約3倍、カワハギ類は約5倍の漁獲量となっています。県西部ではソウダガツオ、カワハギ類、ブリ、アオリイカが主体となっており、ソウダガツオは前年の約4倍の漁獲量となっています。隠岐地区ではマアジ、カワハギ類、ソウダガツオ、ブリが主体となっており、カワハギ類は前年の約2倍の漁獲量となっています。マアジとブリは県西部、隠岐ともに前年の1/5～1/4の漁獲量となっています。

【釣・縄】

県東部と西部の漁獲量は前年、平年並みの漁獲量でしたが、水揚金額は前年、平年を下回りました。隠岐では水揚げ日数の減少もあり、前年と平年の約6割の漁獲量、水揚金額となっています。県東部ではサワラ類、ヒラマサ、アオリイカ、ソデイカが主体となっており、県西部はヒラマサ、ブリ、クロマグロ、シイラが主体となっています。ヒラマサは県東部で前年の約5倍、県西部で前年の約2倍の漁獲量となっています。隠岐ではソデイカ、メダイ、クロマグロ、キダイが主体で、メダイは前年の約10倍の漁獲量となっています。

漁獲統計

平成14年11月1日～30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	28	マアジ・ソウダガツオ類	13.5ト	379ト
	西郷	60	サバ類・ブリ・ウルメ・マアジ	36.4ト	2,182ト
	浦郷	23	サバ類・ブリ・マアジ	21ト	484ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	50	ケンサキイカ・アオリイカ	20kg	1ト
	西郷	82	スルメイカ・ソデイカ	624kg	51.1ト
沖合底びき網	浜田	38	ムシガレイ・キダイ	10.1ト	382ト
	恵曇	34	ヤナギムシガレイ・アンコウ・キダイ	4.4ト	149ト
小底	大田市	233	ソウハチ	688kg	160ト
	和江	335	ソウハチ・キダイ	827kg	277ト
定置網	浜田	35	ブリ・カワハギ類・マアジ	534.4kg	18.7ト
	美保関	109	アオリイカ・カワハギ類、スズキ	439.2kg	47.9ト
	浦郷	42	マアジ・ソウダガツオ・ブリ	194.6kg	8.2ト
釣・縄	浜田	915	ブリ・ヒラマサ・メダイ	22.7kg	20.8ト
	五十猛	385	クロマグロ・シイラ・ヒラマサ	39.9kg	15.4ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

【訂正】先月号のトピックス「新しいワカメの種苗生産方法」の中で、グラフ(図1)の横軸の単位が抜けていました。単位は月日で、左から2/4、2/14、2/24、3/6、3/16、3/26、4/5、4/15です。